

「夜景サミット 2025 in 台湾」に参加して

長崎市議会議員 木森俊也

2025年9月30日から10月3日までの4日間、夜景コンベンションビューローが主催する「夜景サミット 2025 in 台湾」に長崎市訪問団（参加議員8名）の一員として参加させていただいた。台湾（台北市）は初めての訪問となるため、街並みや人々の暮らし、そして台湾経済などはどのようなものなのか、また、夜景サミットにおいては、以前（タイやベトナム）参加した経験から、どのような内容で開催されるのか期待しての訪問となった。

1日目、長崎市から福岡空港に移動、台湾の台北桃園空港へ向かいました。その後、滞在先のホテルに16時頃に到着し、1日目が終了。

2日目、「夜景サミット 2025 in 台湾」に参加。今回の夜景サミットには、日本から長崎市をはじめ、沖縄県の(株)東南植物楽園、福岡県北九州市、千葉県の東京ドイツ村、静岡県の御殿場高原時之栖（ときのすみか）、神奈川県藤沢市、静岡県の伊豆ぐらんぱる公園、愛知県のラグーナテンボス、栃木県のあしかがフラーパーク、神奈川県横浜市の10団体が参加し、夜景及びイルミネーションにおける事業報告や観光客受入に対する動画などが紹介され、その後、台湾の関係者や旅行エージェント、マスコミ等にも各自治体・団体からの取り組みや施設のPR、商談会が行われた。



夜景サミット 2025 in 台湾



草山夜未眠レストランからの台北市の夜景

3日目、午前中は、台北市内にある台北大学の校内を散策、霞海城隍廟を見学。また、台湾の台北を代表する迪化街伝統的な文化と現代の台湾の魅力が融合した、歴史的な問屋街の迪化街を散策した。

午後からは、夜景サミットの夜景視察ツアーに参加した。夜景ツアーでは、まず初めに中世紀年堂を視察。中華民国初代総統であった蒋介石氏が1975年4月に亡くなったことにともない、追悼施設として建設され、1980年3月31日に完成した。

その後、草山夜未眠に向かった。この施設は、台北市の夜景を一望できるレストランとなっており、オープンして20年が経っている。11年前の夜景サミットでこの場所を訪れようと計画されていたが、大型バスでは道幅が狭く山を登れなかつたため、断念した経過があった。



中世紀年堂のライトアップ



迪化街

【所感】

以上のように、台湾・台北市での滞在は3日間でありましたが、大変充実した3日間を過ごすことができた。街並みは10年前に訪問した中国（福州市）と似たような感じがした。

また、台北市の方々ともふれあうことができ、日本に対する友好的な関係を現地にて確認出来たことは大きな意義があったと感じた。また、台湾文化に触れるとともに、歴史を知れたことも良かったと思う。

夜景サミットに参加して、長崎の夜景が台湾国民に広く認知され、今後、どのようにして長崎市に台湾からの観光客を呼び込むか、今後の課題ではあるが、今回の夜景サミットを契機に、台湾国民が長崎市に来てくれることを行政と議会そして民間が一体となって取り組んで行くことも大事であると感じた。

最期に、コロナ禍を経てクルーズ船の入港も増加傾向にあり、長崎市を訪れる外国人も増えており、長崎市の夜景の魅力を台湾はもとより、他の国にも知っていただき旅行プランの一つとして積極的に取り入れていただき、夜型の観光客を増加させ宿泊増へつなげていくことに期待したい。